

令和6年度
臼井中学校
第3学年進路だより
【第63号】

学励進

令和7年3月11日
特別号
文責：大越 秀行
「蒔いた種はみな生える」

「いよいよ、最上級生です」

2年生のみなさん、「3年生を送る会」の準備から本番までの心遣い、本当にありがとうございました。各先生方の特徴、各先輩方のエピソードを交えての劇・ダンス。これまで多くの時間をかけて卒業生のために頑張ってくれた根拠がそこに表現されていましたね。素晴らしいパフォーマンスでした。そして、学年合唱。気持ちが1つになるためには、相手に合わせる想いがなければ、ハーモニーは成立しません。ひな壇で歌唱する一人一人の表情は明るく、「3年生が卒業した後は私たちに任せてください」という想いが自信となって、その姿に表れていて見事でした。

卒業式では、「静と動」の『静』の場面が多くある中で、練習から式の雰囲気大切にしようとする（有限だから、きちんと体を緊張させる）みなさんの姿勢が2年生全体から感じられました。そして、卒業式当日。2年生代表生徒の送辞は堂々とした姿で卒業生との思い出をしっかりと語っていました。また、送別の歌の合唱する一人一人の姿からは、卒業生に向けての想いを十分感じ取れました。本当に感動しました。



さて、卒業生の最終進路分類は次の通りです。（男子58名、女子65名合計123名）

【公立】進学総数76名（普通科67名、理数科3名、国際科3名、総合学科2名、商業科1名）
【私立】進学総数46名

合格とは、これまでの努力（①学びが始まってからの勉強 ②義務教育が有限であるからこそその「頑張ること」「我慢すること」の積み重ねが実り、未来のためのスタートを切る節目であると考えます。改めて、『合格』とは、その人の人格が、その学校に合うことです。そして、人格とは、その人の性格、品格、人柄、人間性等です。その中で、今学生であるみなさんにとって一番大事なことは、学びを求めむ**ひた向き**（ある一つの事柄に一生懸命になること）さです。日々の授業の中での**学び**、集団で生活するための公での生活態度はどうあるべきかの**学び**です。

進路を決定する根拠として下記があります。

- ①定期試験の結果、それを含めての前期後期の5段階評定
- ②3年生時における年5回行われた実力テストの結果



『結果は正直』です。各自一人一人が行う学習の成果が正にそこにあります。1つの例として、佐倉高合格者について説明します。

受検生の①評定合計の範囲は、111点～133点（135点満点）
②5回目の実力点は、381点～447点（500点満点）

| | | |
|----|----|----|
| 95 | 89 | |
| 理 | 社 | |
| 91 | 88 | 97 |
| 国 | 数 | 英 |

2つの観点の得点差があるのは、合格基準が各高校ごとに決められているからです。普通科と理数科は

普通科⇒総得点597。5点＝学力検査500点＋調査書67。5点＋面接30点
理数科⇒総得点697。5点＝学力検査600点＋調査書67。5点＋面接30点



3つの内容の合計ですが、当日の学力検査の結果が大きく左右することが分かります。例えば、理数科を受検した生徒の具体的な点数は〔国64社74数91理97英69の合計が395点で、理数科における点数換算では489点となり合否の結果に優位になります。また、面接も調査書の点数の半分近くの割合があり、ここも大事になります。観点は、志望理由と入学後の構想を語る姿勢と考え方です。

高校入試の結果で人生は決まりません。人生の味わいは、年齢を重ねて、20代30代40代50代60代70代80代…と生きていく中で各自が通る生活に現れてくるものです。但し今は10代ですからね。